「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 192 2017. 1. 16 (月)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage: http://e-amco.com/

「今月の海の生きもの」 ホオズキフシエラガイ Berthellina citrina

軟体動物門背楯目カメノコフシエラガイ科の一種。貝殻は退化的に小さく身体の中に埋没している。体長は



2~3cm で、体表 には模様も構造 も無く平滑で橙 赤色を呈する。 カメノコフシエラ ガイ類の中では もっとも鮮やか な色彩を持ち、 もっとも小型の 種である。丸っ こい身体と色か らホオズキフシ エラガイの名が ある。カイメン類 を食べる。熱帯 太平洋に広く分

布する。日本では太平洋側で相模湾以南、日本海側では若狭湾以南の暖かい海の潮間帯やその下の転石の 表面に見ることができる。

(香川県の海岸にて 倉谷うらら氏撮影)

目次

「今月の海の生きもの」ホオズキフシエラガイ・・・・・・	•	•	•			1
1.「海の生き物を守る会」の活動について・・・・・	•	•	•	•	•	2
2. 「ウミガメ 切手コレクション」(23)立川賢一・・・	•	•	•		•	8
3. 海の生き物とその生息環境に関するニュース・・・	•	• •	•	•	•	9
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報・・	•	•	•	•	•	13
5.「有明海と三陸の水辺から」(47)田中 克・・・・・	•	•	•	•	•	18
6. 事務局便り ・・・・・・・・・・・・・・・・	•	•	•	•	• 9	20
7. 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	•	•	•	• 4	20

1. 「海の生き物を守る会」の活動について

【活動予定】

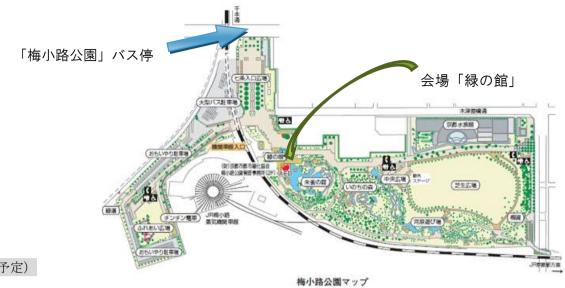
●海の生きものを守るシンポジウム 2017 「失われる沿岸の自然と公共事業―辺野古・諫早・泡瀬・三陸・湘南」 2017 年 2 月 18 日 京都市梅小路公園緑の館

日本の海岸はどうしてこうなってしまったのだろうか? 自然の海岸はほとんどなくなった。その原因は海岸で行われる公共事業にあるのではないか。辺野古、諌早、泡瀬、三陸海岸における公共事業とその影響を知り、これから予想されるオリンピックのための湘南海岸の自然破壊を考え、問題は何か、どうすれば良いのか、これから何が必要なのかを、皆様と議論したいと思います。以下の要領でシンポジウムを開催します。寒い時期ですが、ご都合を合わせて、半日海の生きものを守るためにどうすれば良いかご一緒に考えてください。

日時:2017年2月18日(土)13:30~16:30 会場:梅小路公園「緑の館」1Fイベント会場

> ※会場は、京都駅からバスで5分。京都水族館や交通博物館のある公園の中央部にある建物です。 日本庭園「朱雀の庭」が併設されています。

アクセス:徒歩の場合→JR・地下鉄・近鉄「京都」駅中央口より塩小路通を西へ徒歩約 15 分、または JR 山陰本線「丹波口」駅より南へ徒歩約 15 分/バス利用の場合→京都駅前(B3 のりば)から急行 103・急行 104・急行 110 系統、86・88 系統で「七条大宮・京都水族館前」または「梅小路公園・京都鉄道博物館前」で下車すぐ。または、205・208 系統で「梅小路公園前」下車



プログラム (予定)

13:00 開場

13:30~13:40 開会挨拶 向井 宏 (海の生き物を守る会)

◇講演

13:40~14:10 「閉め切りから 20 年の有明海・諫早湾」佐藤正典 (鹿児島大学)

14:10~14:40「泡瀬干潟の現状と失われたもの」前川盛治(泡瀬干潟を守る連絡会)

14:40~15:10「三陸の森里海のつながりを断絶する巨大防潮堤」田中 克 (舞根森里海研究所)

15:10~15:20 休憩

15:20~15:45「辺野古・大浦湾のサンゴ礁の危機と再生」安部真理子(日本自然保護協会)

15:45~16:10「オリンピックにより開発の危機に晒される相模湾」 大久保奈弥 (東京経済大学)

16:10~16:30「沿岸の危機を守るための提言」 **向井 宏**(海の生き物を守る会)

16:30 閉会

★委任状提出のお願い

総会参加者はご連絡ください。参加できない会員は事前に事務局向井(下記) まで委任する旨をお知らせください。 向井 <u>hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp</u>

●総会を開催します

海の生き物を守る会の 2016 年度の報告と 2017 年度の活動について話し合う総会を、以下のように京都市で 開催します。夕食をとりながら行う予定です。海の生き物を守る会会員の方はぜひ参加してください。

日時:2017年2月18日17:30~19:30

会場:「京野菜レストラン」京都市梅小路公園「緑の館」シンポジウム会場横

会費:3000円(飲み放題付)

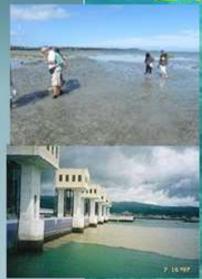
議題:2016年度活動報告・同会計報告、2017年度活動計画・同役員選出ほか

海の生きものを守るシンポジウム2017

なぜ日本の海岸はこんなになってしまったのか?



-辺野古·諫早·泡瀬·三陸·湘南





鐵油

- 1. 「閉め切りから20年の有明海·諫早湾」 佐藤正典(鹿児島大学)
- 2. 「泡瀬干潟の現状と失われたもの」前川盛治(泡瀬干潟を守る連絡会)
- 3. 「三陸の森里海のつながりを断絶する巨大防潮堤」田中 克(舞根森里海研究所)
- 4. 「辺野古・大浦湾のサンゴ礁の危機と再生」安部真理子(日本自然保護協会)
- 5. 「オリンピックにより開発の危機に晒される相模湾」大久保奈弥(東京経済大学)
- 「沿岸の危機を守るための提言」向井 宏(海の生き物を守る会)

入場無料申込み不要

日時: 2017年2月18日(土) 13:30~16:30

会場:京都市梅小路公園「緑の館」1Fイベント会場

京都水族館となり

主催: 海の生き物を守る会

砂浜の自然を守るために!

全国の砂浜海岸生物調査にご協力ください

秋田、山形、岩手、福島、富山、石川、岡山、佐賀、熊本県は未調査です

現在まで257枚、141カ所を調査 砂浜フィールド図鑑(2)も刊行予定

海の生き物を守る会では、全国の砂浜海岸で生物調査を進めてきました。危機的な状況が続いている砂浜と その周辺に棲む生き物のために、日本の砂浜を取り戻そうと計画された調査です。今年10月からは自然保護助 成基金プロ・ナトゥーラ・ファンドの支援を受けて、来年9月には第二次の中間報告書を発行する予定です。 また、研修会を石川県、神奈川県で行うほか、「砂浜フィールド図鑑(2)海浜植物」の刊行も予定しています。

調査は誰にでもできる方法で計画されていますので、少しでも多くの人が多くの海岸でこの調査に参加していだけるようにお願いいたします。<u>当会のホームページ</u>には、ワードファイルで調査の方法と報告用紙が掲載してあり、ダウンロードが可能です。

これまでに会員や非会員の皆さまから257枚の調査票が寄せられ、全国141カ所の砂浜で調査が行われました。ご協力に感謝いたします。しかし、全国の砂浜調査にするには、まだまだ多くの海岸での調査が必要です。まだ調査が1カ所も行われていないのは、秋田、山形、岩手、福島、富山、石川、岡山、佐賀、熊本の各県です。ぜひご協力をお願いいたします。また同じ海岸でも季節が違えば、結果が異なります。いつでも、どんなときでも調査はできます。ぜひ一度、ホームページから調査マニュアルをお読みいただき、調査にご協力をお願いします。

●保全すべき砂浜を推薦してください

海の生き物を守る会では、砂浜海岸生物調査の一環として、全国の砂浜でぜひ保全すべきだと思われる砂浜を募集しています。2016年度末までに「ベスト30」を決定し、そのリストを公表して、今後の保全活動に貢献したいと思いますので、ぜひ推薦をよろしくお願いいたします。推薦にあたっては、その砂浜の数枚の写真とその他、生物情報、自然度などについても、お知らせください。

これまで推薦された砂浜の中には、閖上浜のように巨大防潮堤がその後建設されてしまい、もう守りたい砂 浜ではなくなってしまったところもあります。日本の砂浜はどんどん壊されつつあります。早く保護すべき砂 浜を指定して、保護活動に役立てましょう。



さしあげます!

下記を希望者に差し上げます(送料はご負担ください)。 向井 宏 <u>hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp</u> までお知らせください。

©Diving team Snack Snufkin

[Exploring the Nature of Oura Bay and its surrounding area]

2010年 日英両語による大浦湾の生物のパンフレット

◎GREEN AGE 2015-4 特集・これからの海岸林造林を考える

2015年 日本緑化センター 1部

◎杉山恵一監修/自然環境復元研究会編「海辺ビオトープ入門:基礎編」146pp 信山社サイテック刊

◎向井 宏 論文 別刷り 余部あり

「陸域-沿岸域統合系における藻場生態系」 月刊「海洋」2005

「海域・海洋保護区の効果と現状」 環境情報科学 2009

「ジュゴンの摂餌生態:現状と展望」 海洋理工学会誌 2009

「干潟・藻場の再生事業:その問題点」 地球環境 2011

◎向井 宏 「第一編 厚岸地方の自然環境 第二章 厚岸町の特色ある生態系」

新厚岸町史(通史編・第一巻) 2012年 残り2部

向井宏 「同 第三章 厚岸町の動物」 同 2012年 残り1部

向井宏 「同 第四章 厚岸町の植物」 同 2012年 残り2部



)思っていること 言いたいこと 〇(



ご投稿は、下記までお送りください。

「うみひるも編集部」専用メールアドレス <u>hirumo@live.jp</u>

または、便利な投稿フォーム https://goo.gl/GjWIjL

●辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の活動について

海の生き物を守る会が参加している「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」では、辺野古に故郷の土砂を送らないよう要請する署名活動を行い、これまで10万筆を超える署名が集められました。

今後とも署名を継続し、西日本各地からの土砂の採取による自然破壊と辺野古への土砂の搬出に 反対し、三重県で作られ辺野古へ運ばれる予定の 大型ケーソンの建設・搬出にも反対し、辺野古の 埋立を止めさせるよう、運動を継続していきます。

活動を広めるためにパンフレットを発行しました (写真は表紙)。1部500円をカンパとしていただいています。安倍政権は、沖縄の圧倒的な民意を無視して、西日本の14カ所の山を削り、辺野古へ送って、辺野古の海の埋立を強行しようとしています。辺野古の海を守る手立ての一つとして、



この活動に賛同する意味からも、ぜひご購入をお願いします。

★ご希望の方は右記までお知らせください。

向井 宏 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

1部 500 円+送料のお振り込み先:ゆうちょ銀行 19230-2848391 幼化砂

●好評販売中! 砂浜フィールド図鑑(1) 『日本のハマトビムシ類』



海の生き物を守る会では、砂浜海岸生物調査を一般の人々に呼びかけています。このたび、「砂浜フィールド図鑑」シリーズの(1)として、どの浜辺にも必ず見かけるハマトビムシ類の図鑑を刊行しました。

A5 判 14 ページ。1 冊 100 円で頒布しています。 会員には1 冊に限り無料でお送りします (送料のみご負担 ください)。

★ご希望の方は下記までお知らせください。

向井 宏 <u>hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp</u> 1 部 100 円+送料のお振り込み先:

ゆうちょ銀行 19230-2848391 ムカイヒロシ

2. ウミガメ 切手コレクション(23) 立川賢一

ウミガメの保護と調査・研究

ウミガメの保護活動と調査・研究-6

ウミガメの調査・研究は観測器具の開発と導入で進展する



産卵の様子を観察



タグを付けて観察



潜水して観察



発信器をカメの背に取り付けます



発信器を付けたカメを海に放して 人工衛星で行動を追跡します



ふ化した稚ガメを海に放ちます

3. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

編注: このニュース欄の情報源はマスコミ・団体の会報・その他多岐にわたります。海の生き物に関する最新情報を共有するため、事実と思われる内容を紹介し、それについて必要と思われる範囲で論評もしています。文責者名を記事毎に明記しますが、独自の裏付け調査をしているわけではありません。その点は、ご承知おきください。読者からの投稿も大歓迎です。

【東北】

●海鳥の繁殖地に危機

ウミネコやウトウなどの海鳥の繁殖地として知られている宮城県女川町の沖 14km、太平洋に浮かぶ無人島「足島」に、ドブネズミが侵入し、海鳥の雛や卵が食べられる被害が拡大している。足島は断崖に囲まれ外敵のいない島としてウミネコやウトウなど海鳥数万羽の繁殖地になっている。付近の海は餌となるコウナゴなどが豊富で、足島は海鳥の楽園でもあった。ところが、近年になって足島にドブネズミが侵入し、海鳥が食べられる被害が続出しているという。ドブネズミの侵入は東日本大震災の大津波で、がれきに乗ってドブネズミが足島に到達し、増えたと考えられている。海鳥の被害がドブネズミによるものというのは、今のところ推測だが、環境省ではドブネズミの駆除に乗り出した。昨年 11 月には殺鼠剤入りの餌を撒いた。効果を確認すると共に、今後の再侵入の可能性もあるとみて監視を行うこととしている。(文責:向井 宏)

【中国】

●上関原発建設を推進する姿勢を表明 中国電力

中国電力の清水希茂社長は、新年の記者会見で、現在凍結状態になっている山口県上関町長島田ノ浦に建設を予定している上関原発について、山口県知事が昨年埋め立て工事免許の延長を認めた際に、知事から「国が審査中の原発本体の着工が見通せるまでは埋め立て工事に入らないように」という要請書を受け取っていることから、今年度中の埋立工事再開は困難であると述べた。その一方、「古い原子力発電所が廃止される中で、日本で唯一の新規立地の上関(原発建設計画)は非常に重要」と述べて、上関原発建設を推進していく姿勢を強調した。(文責:向井 宏)

【四国】

●浅瀬に入り込んだハナゴンドウを救出 田井ノ浜

1月5日早朝、徳島県美波町田井にある田井ノ浜の浅瀬にイルカのような動物が1頭迷い込んでいるのを市 民が見つけ、牟岐警察署に届けた。身体の半分以上が水上に露出していたが、とくに弱っている風ではなかっ たため、そのまま東由岐漁協の漁師らが沖に誘導し、無事救出することができた。体長2.5mくらいの小型鯨 類のハナゴンドウとみられる。田井ノ浜では、数年に1回程度イルカが迷い込むことがあるが、ハナゴンドウは珍しいという。(文責:向井 宏)

【九州】

●佐賀県有明漁協は基金案受け入れに反対 開門しない前提に反発

国営諫早湾干拓事業により有明海の環境が悪化して、大きな漁業被害が出た。漁業者らはこれに反発して、「潮受け堤防」の開門を要求している。一方、干拓地に入植した農民らは、開門に反対を続けている。

長崎地裁に農民らが開門させないよう提訴した訴訟について、長崎地裁は2016年1月に国、原告、漁業団体に和解協議を提案した。これに対して農民団体は開門しない前提を条件として和解協議に応じ、漁業者らは開門を前提に和解協議に応じて、現在和解協議を行っている。その後、昨年11月末に国は「開門をしない」という前提で、100億円を拠出して「有明海振興基金(仮称)」を設立し、有明海の漁業環境改善に取り組むという提案をした。これに対して、漁業者らは反発し、1月3日に有明海沿岸4県の漁業者らが漁船100隻を連ねて、「有明海再生には開門しかない」と海上デモを行った。しかし、国の基金案について、長崎県漁連は賛成を表明、福岡県有明漁連は、開門要求を放棄しないことを前提として国の基金案受け入れを決めた。また、熊本県漁連では、12月28日の関係組合長会議で議論し、賛成14反対4欠席1で基金案受け入れを了承した。熊本県漁連では、12月28日の関係組合長会議で議論し、賛成14反対4欠席1で基金案受け入れを了承した。熊本県漁連会長は、「開門の旗は降ろしたくないが漁民の生活を考えれば一日も早い有明海再生のために基金案を受け入れる」と話している。しかし、内部では「100億円規模の基金では有明海の再生は難しい」との声もあり、反対意見も付けて長崎地裁に回答する予定。一方、佐賀県漁連は、1月9日の支所長・運営委員長会議で、基金案受け入れを拒否することを確認した。「有明海再生には開門が不可欠」との立場を堅持し、「佐賀県の漁業者の総意としてはっきりと拒否すべき」とした。佐賀県漁連組合長は、福岡・熊本両漁連が受け入れを決めたことについて「漁業者がばらばらになるのが一番いけない」と述べ、3県で共通の回答書を作るよう3県漁連のトップ会談で提案した。

一方、受け入れを決めた福岡県有明海漁連に対して、福岡県の漁業者らは約250人の賛同者の署名をもとに120人が集まって西田会長に受け入れ撤回を求める要請書を手渡した。要請書には、「開門無くして有明海の再生なし」とし、「組合員に説明も相談も無く方針を大転換したのは納得できない」としている。撤回を要請した漁業者の一人は、「基金をもらったら(開門しないことを)受け入れたことになる」と今後も運動を続けていくと言明した。

<国営諫早湾干拓事業とは>

1952 年、長崎県知事が長崎県の平地を広げることと当時の食糧難を解決するために「長崎大干拓構想」として発案し、国(農水省)が国営事業として実施した。干拓によって広大な干拓地を得、農地の冠水被害(塩害)を防ぎ、農業用水も確保することを目的とした。当初の計画では諫早湾 11000ha を締め切って巨大な干拓地を造り、米の増産を図るものであったが、その後の米余りや予算の関係で規模を 1/3 に縮小して計画から実に 37 年も経ってようやく 1989 年に着工した。潮受堤防は諫早湾の中央部を横断し、全長 7km にもなる。計画面積 3500ha、埋立面積:約 942ha、調整池面積:約 2,600ha、事業費 2,533 億円。しかし実施前から批判にさらされ、走り出したら止まらない無駄な公共事業の典型とされた。科学技術振興機構(JST)がまとめた「失敗百選」にこの諫早干拓

事業が挙げられている。失敗は、財政問題に限らず、有明海全体の生態系異変を引き起こし、環境悪化は多大な漁業被害をもたらした。専門家らによって、その環境悪化のプロセスは、ほぼ明らかになってきた。



【左】諫早湾と干拓地を示した写真(Google Earth より)



【右】干拓地、調整池と「潮受け堤防」の位置 を示した写真(農水省ホームページより)



「潮受け堤防」のギロチンが落された直後の諫早湾奥の干潟。絶滅危惧種のハイガイが干潟一面で大量に死んでいる。(佐藤慎一氏撮影)

<これまでの経緯>

国営諫早干拓事業で諫早湾の中心部に長い「潮受け堤防」を建設し、二重干拓を行った国に対して、有明海の漁業者らは、開門して海水を堤防内に入れるよう要求してきた。1997年の「潮受け堤防」の締め切り(ギロチンと言われた)から3年後、2000年の有明海ノリ養殖の大不作を受けて、政府は諫早干拓事業の見直しを表明し、2001年に「潮受け堤防」の短期開門調査に踏み切り、埋立面積の縮小も行った。しかし、有明海の環境変化は止まらず、有明海の名産だったタイラギ漁は壊滅し、現在まで休漁が続いている。これに対して、有明海の漁業者らは国を相手に潮受け堤防の開門を要求して提訴、佐賀地裁は干拓事業と有明海の漁業被害との因果関係を一部認め、5年の長期開門調査を命じた。国は控訴したが、2010年、福岡高裁は干拓事業と有明海の漁業被害の因果関係を認め、長期開門調査を命じた佐賀地裁の決定を支持した。判決は国の責任について「大型公共工事による漁業被害の可能性がある以上、率先して解明し適切な施策を講じる義務を負う」とし、「中・長期開門調査は不可欠で、これに協力しないのは立証妨害である」とし、国の主張をことごとく退けた。時の民主党政権は、この高裁判決を受け入れ判決は確定した。

確定判決では、2013 年までに開門調査を始めることを命じており、農水省もそれに基づき開門調査を行う予定としていたが、すでに干拓地に入植していた農民らの反対で対応工事を断念した。これに対して、開門を要求してきた有明海漁業者らは、確定判決で決められた時期になっても開門をしない国に対して、制裁金を支払うよう申し立て、佐賀地裁はこれを認め、開門しない場合は漁業者ら原告に1日45万円(一人あたり1万円)を支払うよう命じた(後に90万円に増額)。一方、入植した農民らは、長崎地裁に開門しないよう仮処分を申し立て、長崎地裁は干拓事業と有明海の漁業被害との関連については判断しないで、これを認めた。さらに長崎県の農民らは、逆に開門した場合には農民らに制裁金を支払うよう求め、長崎地裁はこれも認め、開門した場合は、国が原告らに1日49万円を支払うよう命じた。これによって、国は「開門せよ」と「開門するな」という矛盾した二つの判決に従わざるを得なくなり、どちらにしても間接強制という制裁金を支払わねばならなくなった。この矛盾した二つの判決に対して国は最高裁の判断を仰いだが、最高裁は両方の判決とも有効で、地域によって矛盾した判決がありうるという判断を下した。(文責:向井 宏)

【沖縄】

●辺野古基地建設工事を再開 市民らの抗議続く

米軍の辺野古新基地建設工事は、工事を巡る沖縄県と国の訴訟合戦を経て、裁判所の和解勧告を双方が受け入れる形で一時中断していたが、沖縄県知事が埋め立て工事免許承認の取り消しを行ったことを違法として国が知事を訴えた裁判で、最高裁判所が国の訴えを認めたことから、国は新年から新基地建設工事を再開させた。1月10日には、辺野古崎から大浦湾長島へ黄色のフロートが敷設された。さらにフロートは回収前を超える範囲で広範に敷設される予定である。辺野古新基地建設に反対する地元住民や支援者らは、毎日早朝からキャンプ・シュワブのゲート前に座り込んだり、抗議船とカヌー隊を編成して、工事の再開に抗議している。これまではまだ多くの工事車両の搬入などはみられていないが、今後、工事は急ピッチで進められると思われる。一方、あらゆる手段で辺野古基地建設を阻止していくと言っていた翁長県知事だが、これまで埋立許可の撤回や岩礁破砕許可の取り消しなどの有効な手段を執っていない。反対派住民からは、翁長知事への不満も現れてきている。(文責:向井宏)

4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【関東】

◆2017 年世界帰地の日記念シンポジウム

1971年2月2日にラムサール条約が採択されたことを記念して、ラムサール条約事務局は毎年2月2日を 「世界湿地の日(World Wetlands Day)」と定めています。今年の世界湿地の日のテーマは「Wetlands for Disaster Risk Reduction (湿地と防災・減災)」となっており、テーマに沿ったシンポジウムを開催致します。 ご興味がございましたら是非ご参加いただければと思います。

日時:2017年2月4日(土)

 $14:00\sim17:00$

場所:国連大学エリザベスローズ国 際会議場(東京都渋谷区神宮前 5-53-70)

テーマ:湿地と防災・減災(Wetlands for Disaster Risk Reduction)

主催:日本国際湿地保全連合(WIJ)、 国連大学サステイナビリティ高等研 究所(UNU-IAS)、地球環境パート ナーシッププラザ (GEOC) 協力:ラムサールセンター

基調講演

・古田尚也(大正大学 教授・IUCN 日本リエゾンオフィス コーディネ ーター

「Eco-DRR に関する国際的動向」

・島谷幸宏(九州大学 教授) 「日本における Eco-DRR について」

※Eco-DRR: 生態系を基盤とした防 災·減災

2017年世界湿地の日記念シンポジウム

1971年2月2日にラムサール条約が採択されたことを記念して、ラムサール条約事務局は毎年2月2日を「世界運地の日(World Wetlands Day)」と定めています。湿地への関心を高めるために、世界各地で様々なイベントが開催されています。 2017年の世界湿地の日のテーマは「湿地と防災・減災(Wetlands for Disaster Risk Reduction)」です。 シンポジウムでは、湿地と防災・減災について、世界の動向、日本国内の取組を紹介し、湿地が防災・減災に果たす役割を再確認します。

参加署無料

2017年2月4日(土)14:00-17:00

F: 国連大学エリザベス·ローズ国際会議場

テーマ: 湿地と防災・減災

主 催: 日本国際湿地保全連合(WIJ) 国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS) 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)

韓 カ: ラムサールセンター

基期請注

古田肖也 大正大学教授・IUCN日本リエゾンオフィス・コーティネータ Eco-DRRに関する国際的動向

日本におけるEco-DRRについて

八元経 理境省 自然環境局 自然環境計算課 生物多様性地球機能企業區 富長補佐 生態系を活用した防災・減災

~自然と人がよりそって災害に対応するという考え方~

堂園優多 国土交通省水省理・国土民公司河川環境隊 河川環境隊会議督官 河川管理者が行う湿地保全に関する最新情報について

阿部拓三 富城県南三崎町 産業振興課 ネイチャ 志津川湾における震災からの復旧と 湿地・干湯をめぐる現状について

守分紀子 SATOYAMAイニシアティブコーディネータ

防災・減災とSATOYAMAイニシアティブ

名執芳博 日本国際環境保全連合 金長

防災・減災に関わる

Wetlands Internationalの取り組み





松浦川 アザメの瀬(自然再生温地)氾濫時

タイムテーブル

13:30- 受付

14:00-17:00 シンポジウム

·基調講演·取組紹介

・ディスカッション、まとめ

17:30- 惣親会

(国連大学1Fアネックススペース)

申込先・詳細 https://goo.gl/UnHHYj ※シンポジウム、恩親会ともに事前申込が必要です。

日本国際湿地保全連合(Wetlands International Japan) тец: 03-5614-2150 е-mail: info@wi-japan.org



事例報告:

八元 綾 (環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室)

「生態系を活用した防災・減災~自然と人がよりそって災害に対応するという考え方~」

堂薗俊多(国土交通省水管理・国土保全局河川環境課)

「河川管理者が行う湿地保全に関する最新情報について」

阿部拓三 (南三陸町ネイチャーセンター準備室)

「志津川湾における震災からの復旧と湿地・干潟をめぐる現状について」

守分紀子 (国連大学サステイナビリティ高等研究所)

「防災・減災と SATOYAMA イニシアティブ」

名執芳博(日本国際湿地保全連合)

「防災・減災に関わる Wetlands International の取り組み」

★申し込みフォーム:

 $\frac{https://docs.google.com/a/wi-japan.org/forms/d/e/1FAIpQLSc2oy7CL9OdzBOZb-A9AlUYGV4DjdNs3jOLm}{LgTg4Txt4WI2w/viewform}$

【沂畿】

◆和歌山市環境保全講演会「干潟の生きものからみた生物多様性保全の意義」

日時:2017年2月1日(水)13:30~15:00

場所:和歌山市勤労者総合センター6F文化ホール



講師:和田恵次(奈良女子大学名誉教授)

参加費:無料 定員:150名

★申し込み方法:はがき又はメールで

締め切り:1月20日(金)

宛先:和歌山市環境政策課(和歌山市七番丁 23) e-mail: kankyoseisaku@city.wakayama.lg.jp

【中国】

◆お話し会「黒髪島の土砂が 沖縄辺野古にいく!?」

日時:2017年1月29日(日)13:00~15:00

場所:山口県周南市役所仮庁舎(旧近鉄松下百貨店)6F大会議室(JR徳山駅から徒歩2分)

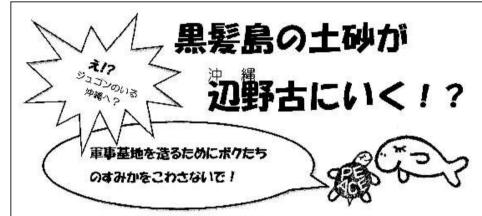
講師:湯浅一郎さん (環瀬戸内海会議共同代表)

参加費:資料代500円

主催:「辺野古に土砂

を送らせない!」山口

のこえ



黒髪島、大津島周辺の海域が汚される惧れが!!

黒髪島周辺は「近洋の生物多様性の保全と持続可能な利用の促進に資する」と、「重要掲載」 に指定されています。辺野古新基地が計画されている沖縄・大浦湾も同じです。 黒髪島の採石 場から多量に掘り出された岩石(岩ズリ)によって、黒髪島、大津島周辺の海域、そして沖縄 の豊かな海が行される慣れがあります。

※瀬戸内の自然と環境を守りましょう!

多量の岩ズリを洗浄した廃水は海にたれ流されます。採石場からの上砂によりヘドロが指 積し死滅した海域もあります。故郷の海を汚し基地をつくる土砂機山を考える集いをします。

☆日時 1月29日(日)午後1時~午後3時☆会場 周南市役所仮庁舎(旧近鉄松下百貨店)6階 大会議室

周南市銀座通り(JR 徳山駅から徒歩2分)

※駐車場は裏面参照

☆お 話 湯 浅 一 郎 さん

(環瀬戸内海会議共同代表)

☆資料代 500円

主催:「辺野古に土砂を送らせない!」山口のこえ

連絡先 防府市栄町2-2-27 防府パプテスト教会

電話 0835-28-7522

「沖縄県民は勢度知事を告頭に、要かな自然を守り、軍事基地建設を許さない取削みを続けています。私にらも、販売内の自然と環境を守るため、また沖縄の軍学基地建設に反対するため未発島などからの工使採取・搬出に反対します。

◆上関プランクトン調査 参加者募集

上関の自然を守る会では、2カ月に1回、「奇跡の海」と言われる上関海域でのプランクトン調査を行います。次回は3月4日(土) $9:00\sim15:00$ に、5点で稚魚ネットによる動物プランクトンの採集を行う予定です。この海域に生息している希少なカンムリウミスズメや、スナメリなどの餌としての稚仔魚・大型動物プランクトンを採集することを目的としています。

★いっしょに調査に参加してみたいという方は、上関の自然を守る会(高島 midori.t@crocus.ocn.ne.jp または向井 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp まで事前にご連絡ください。

調査に出かけるには遠くからの場合は前日からの宿泊が便利です。事前に申し込めば、同会の「ひよりみ 荘」に宿泊も可能です。調査では、運が良ければカンムリウミスズメなどの鳥類、スナメリなども観察でき る可能性があります。ただし、乗船して海上での作業ですので、天候次第では直前に中止もあり得ます。ま た、天候によっては船酔いも。ご承知おきください。

また、翌3月5日(日)の午前中には、岩国市内で採集したプランクトンの選別作業を行います。普段見たことのないプランクトンを見ることができます。ぜひご一緒に作業をやってみませんか。採集調査には行けないが、選別作業なら協力できるという方も募集しています。

【九州】

◆シンポジウム「どうしたら有明海は再生するのか」

有明海漁民・市民ネットワークと諫早湾開門研究者会議の共催によるシンポジウムを下記の通り開催します。 今回は有明海・八代海等総合調査評価委員会の 2016 年報告の取りまとめが近づいていることから、評価委員

の速水祐一さん、小松利光さんにもご登壇いただき、委員会報告の内容も含め、これまでの有明海の調査研究や再生策の課題について考えていきます。一般向けのシンポジウムですので、みなさまお誘い合わせの上、ご来場ください。

日時:2017年1月22日(日)13:30~16:30

場所:佐賀県弁護士会館(佐賀市中の小路 7-19)

参加費:無料

基調講演: 東幹夫(長崎大学名誉教授)/速水祐一(佐賀大学低平地沿岸海域研究センター准教授)

パネルディスカッション: 東幹夫/小松利光(九州大学名誉 教授)/佐々木克之(元水産庁中央水産研究所室長)/堤裕昭(熊本県立大学環境共生学部教授)/速水祐一

問い合わせ:漁民ネット事務局 TEL 03-3986-6490



◆「第41回九州海洋生態談話会」

2017年3月18日~3月19日(土曜、日曜)の両日、熊本大学合津マリンステーションにて開催いたします。何かと忙しい時期ですが、ふるってのご参加をお待ちしております。

先ずは講演者を募集いたします。海洋生態としていますが、講演内容は、淡水・発生・古生物・環境問題など何でも OK です。講演時間は通常の学会講演よりも時間を取り、質疑応答にも時間をかけています。議論優先ですので、完成した研究だけでなく、現在進行中の研究も歓迎いたします。他分野の方からの意見は大変参考になります。実験所宿泊棟に泊まっての談話会であり、懇親会がメイン行事?くらいに盛り上がります。美味いものを食べながら、語り明かしましょう。

★参加(宿泊)申し込み締め切り:2月20日(月) ※期限後は問い合わせください

場所: 熊本大学合津 マリンステーション (熊本県上天草市松島町合津 6061) TEL: 0969-56-0277, FAX: -3740 合津マリンステーションまでの順路: http://www.geocities.jp/henmiy21/mitijyun.htm

スケジュール (予定)

3月18日(土) 13:30 談話会

17:30 入浴・ 夕食 兼懇親会

3月19日(日) 9:00-12:00 談話会

記念写真の後、解散

会費:参加人数によっては若干の変更あります。

学生は、宿泊・雑費 1,000 円、夕食券懇親会費・朝食ほか 2,000 円 →合計 3,000 円 一般・有職者は、宿泊・雑費 1,000 円、夕食兼懇親会費・朝食ほか 3,500 円 →合計 4,500 円

★参加及び講演の申し込みは下記事項を森 敬介まで、メールにてご連絡ください。 メールが使えない方はFAX、郵送でも結構です。

メール: morik@nimd.go.jp

fax: 0966-62-6911

郵送: 〒867-0008 熊本県水俣市浜 4058-18 国立水俣病総合研究センター 森 敬介 宛

- 1. 名前
- 2. 所属
- 3. 講演の有無
- 4. 講演タイトル
- 5. 使用器機、プロジェクター(Windows, Mac)、プリント、ビデオなど
- 6. 到着予定、使用交通機関
- 7. 実験所宿舎への宿泊希望
- 8. 性別(部屋割りのため)
- 9. 有職・学生の別(懇親会費用のため)

荒尾干潟の穴掘り名人アナジャコ

かつて限りなく豊かであった有明海から多くの生き物が姿を消す中で、ラムサール条約に登録されている 熊本県荒尾市の干潟では、アサリに代わってアナジャコ(写真1)が注目されています。甲殻類の一種であ

るアナジャコは、北海道から九州の 太平洋沿岸の干潟周辺の海底に深 い孔を掘って生息し、動植物プラン クトンや有機懸濁物などをろ過し て餌としています。干潮時に現れた 孔に筆をさし(写真 2)、外敵と認 識したアナジャコが噛み付くタイ ミングを見計らって、そっと筆をないて捕獲する独特の釣り方でよく 知られています。捕獲した元気なア ナジャコを、アユの友釣りのように おとりに使い、筆よりははるかに攻 撃的に追い出そうとする習性を生 かして、釣り上げる方法も試みられ ています。



写真1 筆で釣り上げられたアナジャコ



写真2 荒尾干潟の風物詩ともなっているアナジャコ釣り

荒尾干潟は、かつては有明海を 代表するアサリの好漁場であり、 晴れた日には対岸の雲仙岳の勇 姿(写真3)を眺めながら干潟遊 びができる格好の場所として、春 先の大潮時には潮干狩りを楽し む多くの家族連れで賑わいまし

た。しかし、1980年代終わり頃から干潟の疲弊が進み、アサリの漁獲量は急激に減少し、今では漁獲対象にならないような事態に至っています。このようなアサリの急激な減少とは反対に、アナジャコが増加し、ア

サリに代わる漁獲対象種として注目されています。漁獲されたアナジャコは、塩茹で、煮付け、から揚げなどで食用とされ、最近では 1kg 当たり 2000 円以上の高値で取引されます。



写真3 対岸の雲仙岳の勇姿を背景にする広大な荒尾干潟

本種は漁獲対象種であるとともに、荒尾干潟では市民のみならず近隣県からもアナジャコ(俗称マジャク) 釣りを楽しむ人々が集まり、平成16年以来毎年7月には「マジャク釣り大会」が開催され、参加者1000人 を越える夏の一大イベントとして人気を博しています。最近では、阿蘇などを訪れる修学旅行生を受け入れ、 マジャク釣り体験教室を実施し、地域活性とともに続く世代に有明海や干潟への関心を喚起する取り組みを 広げています。

本種の生息は、海底表面に直径 2~3cm の孔が存在することで、容易に分かります。荒尾干潟の近くにある熊本県立荒尾高等学校(昨年より、荒尾岱志高等学校と改名)の理科部では、松浦教諭の熱心な指導の下に、干潟の生態系の調査が続けられ、中でもアナジャコの孔の立体構造の全容解明を大きな課題に調査が続けられて来ました。その方法は、大潮干潮時に海底表面に現れた孔に樹脂を流し込んで固化し、その周囲の泥をスコップでひたすらかき出して、その深さや枝分かれなどの全容を明らかにしようとするものです。干潟が干出する限られた時間に掘り出す必要があるという厳しい条件の中、度重なる挑戦を繰り返し、ついにその全容が明らかにされています。5~10cmほどの間隔で空いた穴は地中深く複雑に張り巡らされ、奥深く海水を送り込む重要な役割を果たしていることが容易に想像されます。理科部の先生とその指導の下にひたすら泥を除く作業に汗を流した部員の皆さんの成果と言えます。それは、有明海や干潟とそこに生きる生き物たちへの思いを深めるかけがえのない経験になったに違いありません。

6. 事務局便り

- ◆ 「うみひるも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は、事務局までご連絡ください。
- ◆ このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし、写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。
- ◆ 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- ◆ 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ご一緒に講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会に寄付をお寄せください。口座は会費と同じです。送金内容について事務局までご一報くださいゆうちょ銀行 口座番号:10610-6673021 海の生き物を守る会
- ◆ うみひるもの表紙を飾る海の生き物の写真を募集しています。種名同定済みですと、大変助かります。 海にお出かけの際にはカメラご持参で。ベストショットが撮れたら、ぜひ編集部までお送りください。

7. 編集後記

津波でドブネズミが島に流れ着いたというニュース(9ページ)に、太古から続く地殻変動と、それに伴う生き物の拡散や競争、交雑や進化の一幕を見る思いがしました。ただ、ドブネズミは人間社会があってこそ増えた生き物でもあると思うので、この件については、人がここまで地球上にはびこったからこその出来事だったのかもしれません。近年、各地でクマやシカ、イノシシ、サルなどが里に下りてきて問題になっています。野生生物と人間との関わりを、ドブネズミから改めて考えさせられました。(ちよ)

毎回、南紀白浜から海の生き物の話題を届けていただいている久保田信さんの連載は、筆者の都合により今号は休載です。次 号からまた復活していただけると願っています。1ヶ月後の2月18日には、京都でシンポジウムを開きます。まだ先のように思っていたのですが、早くも1ヶ月先になりました。日本の海岸はどうしてこうなってしまったのか?どうすればいいのか?多くの方が参加され、共に考えていただけることを期待しています。(宏)



会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。年会費は個人 2,000 円、団体 20,000 円。匿名による参加も可能。会員は、各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行い、そのための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひるも』第 192 号 2017 年 1 月 16 日発行

発行「海の生き物を守る会」代表 向井 宏

編集:瀬戸内 千代

〒606-8413 京都市左京区浄土寺下馬場町 69番地

TEL&FAX:075-741-6281 メールアドレス: hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL: http://e-amco.com/

銀行口座:ゆうちょ銀行 口座番号:10610-6673021 海の生き物を守る会全銀システムで送金する場合は、068 **店(ぜろろくはち店)** 0667302 ウミノイキモノヲマモルカイ